

## 薬局薬剤師の吸入指導が喘息コントロール状態に及ぼす影響

久津間 貴司<sup>1)</sup>、本波 茉耶香<sup>2)</sup>、鈴木 俊喜<sup>3)</sup>、小林 大志<sup>2)</sup>、保坂 茂<sup>4)</sup>、  
小山 貴史<sup>5)</sup>、前田 守<sup>6)</sup>、長谷川 佳孝<sup>6)</sup>、月岡 良太<sup>6)</sup>、森澤 あずさ<sup>6)</sup>、  
大石 美也<sup>6)</sup>

- 1) 株式会社あさひ調剤 アルル薬局
- 2) 株式会社あさひ調剤 あさひ調剤薬局 立石 2 号店
- 3) 株式会社あさひ調剤 アイン薬局 川越笠幡店
- 4) 株式会社あさひ調剤 はなまる薬局 毛呂山店
- 5) 株式会社あさひ調剤
- 6) 株式会社アインホールディングス

【目的】吸入手技の不備は喘息コントロールの不良や副作用の増加に繋がり、患者 QOL の低下に繋がる恐れがある。そこで、薬局薬剤師の吸入指導による症状改善状況を調査し、薬局薬剤師の果たすべき役割を考察した。

【方法】当社が東京都と埼玉県で運営する保険薬局 12 店舗で、2020 年 9 月～12 月に薬局薬剤師が吸入指導した患者 100 名の薬歴を確認し、「喘息コントロール状態」や「指導対象薬」などを調査した。結果は、吸入指導前の喘息コントロール状態で「不十分群」「不良群」に群分けし、有意水準 0.05 としたカイニ乗検定および Fisher 正確確率検定で比較した(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0106)。

【結果】吸入指導により改善がみられた患者は 87 名であり、不十分群は 62 名、不良群は 25 名であった。薬局薬剤師の吸入指導により、不十分群の全員、および不良群の 60.0%の喘息コントロール状態が「良好」に改善した。本調査での指導対象薬で最も多かったのは「ビランテロール・フルチカゾン配合薬」であり、その使用状況は不良群(80.0%)の方が不十分群(49.3%)よりも有意に高かった。

【考察】本調査から、薬局薬剤師の吸入指導が喘息コントロールの改善に有用であることが示唆され、患者 QOL の維持に向けて薬局薬剤師は積極的に吸入指導を行うことが必要と考える。本研究では明確にすることはできないが、本調査において指導前の喘息コントロール状態が最も悪かった「ビランテロール・フルチカゾン配合薬」は比較的新しい吸入薬であることから、使用歴が乏しい患者が多かった可能性がある。したがって、薬局薬剤師の吸入指導による喘息コントロールの改善においては、特に患者が新しい吸入薬を使用する際に重要性が高いと考える。

(第 15 回日本薬局学会学術総会(2021 年 11 月, Web)にて発表)